

# 県共闘総会・ブロッコ交流会

部落解放和歌山県共闘会議第40回定期総会を  
9月9日、同和企業センターでひらき、労働組  
合、県連各支部から約150人が参加した。



最後のあいさつをする杉谷議長

主催者として杉谷雅史・議長から「台風18号で心配したが、第40回の定期総会をひらくことができた。私は次をつなぐバトンとして議長を務めてきたが、今大会から連合和歌山に議長をお願いする。今後も加盟団体の活動に期待する。また、差別に反対する運動を100年以上つづけているが、未だに差別はなくならない。私たちはすべての差別がこの世からなくなり、平和で人権が尊重される世の中を創るためにも、皆さまに共闘活動のご理解とご支援をお願いする」とあいさつした。

来賓として、北山芳宏・県参事から仁坂吉伸・県知事

のメッセージ、市の荒竹宏之・副市長からきのくに和歌山国体協力のお礼と尾花正啓・市長からのメッセージが披露された。田上武・部落解放・人権行政確立要求和歌山県実行委員会会長から「今年度は、『同対審答申』から50年、部落地名鑑鑑覚から40年、そして戦後70年という節目の年である。戦争は最大の人権侵害。『人権侵害救済法』の成立に向けて今後の実行委員会へのご協力をお願い」と今日までご指示に感謝する」とあいさつがあった。

つづいて、福島隆志・幹事（解放同盟）が14年度活動報告ならびに決算報告、朝井照貴・会計監査（日教組和歌山）が会計監査報告、阪上貴史・事務局長（県職労）が、15年活動方針・予

算案の提案をおこない、議長よりスローガンが提案され、全員の拍手で採択された。新役員が総会運営委員長より報告され、小林茂・新議長（連合和歌山）があいさつをおこなった。山名達郎さん（自治労）が「すべての人権確立を基本に、平和と豊かな社会を実現さ



山本作兵衛コレクションの経過と成果をはなす森山さん

## 水平社宣言を 世界記憶遺産に

人権博物館の国際発信  
水平社宣言を世界記憶遺産に  
8月30日、奈良春日野国際フォーラムでひらかれ、約300人が参加した。

「水平社宣言を世界記憶遺産に」が8月30日、奈良春日野国際フォーラムでひらかれ、約300人が参加した。基調講演では、森山浩一（公社）福岡県人権研究所理事長はじめ、3人のパネリストから水平社宣言の意義について語られた。

### (1)

9月18日の未明、あの戦争法案が成立した。委員会においても採決したのか、していないのか判明できないような混乱した状況のなかで採決であった。これで安倍総理がめざしていた「戦争ができる国」に一步近づいた。しかし、これですべてが決まったわけではない。この後さらに「戦争のできる国」に向かって国民の統制、管理そしてマスコミを含めイデオロギーを変えさせていく政策が次々に出されてくるだろう。「憲法9条」を護り、平和を守るとりくみははじまったばかりである。これまでのとりくみをさらに前進させ、平和な社会の存続にむけて闘いをつづけていこう。

### (2)

今春から実施されてきた水平社宣言への一連の關係資料をユネスコの世界記憶遺産に登録する運動に、国内選考委員会からの結論が出された。結果は今度も選考されなかった。国内選考で一つは群馬県の

## 主張 部落差別撤廃にむけ、 対和歌山県交渉を 成功させよう！

「上野三碑」。朝鮮半島の石碑文化の影響を反映した、7世紀から8世紀に作られた石碑群。そして、二つ目は岐阜県の杉原千畝の『命のビザ』の關係資料である。今回公募された16件のなかで選考委員が出された結果

がこうである。私たちは「人の世に熱あれ 人間に光あれ」と謳われた水平社宣言が日本最初の人間宣言であり、「アメリカの独立宣言」「フランスの人権宣言」「イギリスのマグナカルタ（大憲章）」と並び称されるものとして幅広く署名活動を

展開し、和歌山県内では約8000筆、全国で15万筆あまりの署名活動が集約されてきた。これも次回選定にむけ、とりくみを継続していかなければならない。今年の内閣「同和对策審

### (3)

議会」答申が出されて50年の節目の年である。現在、藤本委員長を中心に各地域の執行役員とともに県内全市町村に要請行動をおこなう、また全支部で部落解放・人権行政推進各市町村交渉が展開されている。この市町村交渉はただ単に事業を求めていくものではなく、各地域・市町村での部落差別の撤廃を求めていくものであり、きたるべき部落解放・人権行政確立要求2015年対和歌山県交渉に要求を集約し部落差別をなくすための署名活動をめざしていくものである。すべての地域で要求を集約し、一日も早い差別のない社会の実現にむけとりくみをすすめていこう。

## ランチTIMEデモ

「安保関連法案」や集団的自衛権の行使容認の憲法解釈に反対する「憲法の破壊を許さないランチTIMEデモ」が9月14日、和歌山市役所から京橋プロムナードであり、約120人が横断幕やプラカードをもって出発した。



連日のデモで反対訴え

## 狭山事件を 考えよう



私が狭山の闘いを知ったのは40数年前であった。学校を卒業してから地元（橋本市）を離れたこともあり、それから直接に狭山闘争に関わる機会がありませんでした。その後、地元（橋本市）に戻って友人らと狭山学習会を積み重ね、夜行バスに乗って橋本を出発し、バスの中は、助手席も埋まるほど、満タンで辛いなと思いましたが、獄中の石川さんに比べたらそんな贅沢なこと言うてられないと自分に言い聞かせながら集りに参加してきました。初めて参加した時は、参加者の多さに驚きながら話を聞いた。そこで聞いた話は疑問だらけで、「なぜ警察は石川さんを犯人にでっちあげたのか。なぜ再審が行われないのか」など、集会に参加して初めて狭山事件を

知った私には驚くことばかりだった。私は、この集会参加をきっかけに橋本支部で解放運動をすることになったことからも狭山闘争に対しては思い入れがある。足利事件で再審無罪を勝ち取った菅家利和さん、布川事件で再審無罪となった桜井昌司さんにおいては、再審無罪を勝ち取ったが、狭山事件の石川一雄さんについては、まだ再審無罪を勝ち取っていないが、今、三者協議が開始され、これまでの絶対のチャンスを来ていると思う。これまでの180点以上の証拠が開示されたことをふまえ、これから重要な証拠を開示させる取り組みを続け、事実調べ、再審開始を目指しこれからも取り組んでいきたい。（北岡啓二）

**文化の窓**  
「さいごの色街 飛田」  
著者：井上理津子、筑摩書房、302ページ、ISBN978-4-480-818317-7  
作者が10年もの時間を費やし、飛田の性産業・性労働をルポし、1冊を書きあげた。取材することが困難ななか、当事者からの肉声を拾いあげた本である。  
飛田新地は、大阪市西成区に今なお存在する「色街」である。百年前にタイムスリップしたような光景の街に、客引きのおばちゃん、女の子、料亭という名の組合たちが日常生活とは別次元で、20分の疑似恋愛をはじめられる。連鎖する貧困により、他の職業を選べない。しかし、形を変えながらも現在にも必要な街である。  
◆お問い合わせは、県連・教宣部まで  
TEL 073-473-2301